

小学生向けの防災手帳

Disaster prevention notebook for elementary school students.

松田 優衣
指導教員 氏家 和彦

サレジオ工業高等専門学校デザイン科 生活文化マネジメント研究室

キーワード：防災、小学生、手帳、実践的

1. 研究目的

現在、防災は学校で教わるもの=難しい、堅苦しいというイメージがある。そこで持ち運び可能な防災手帳を制作することで防災に対する意識の向上を図ると共に自然に災害の予備知識を与えることができるのではないかと考えた。

2. 調査内容

小学校が児童に行なっている防災教育は大きく分けて3つである。1つ目は、意識啓発として各教科での災害に関する授業、防災訓練、総合的な学習の時間等を利用した防災学習プログラム、防災展示室等での校外学習、防災教育教材等である。2つ目は、災害の知識の学習として各教科での災害に関する授業、防災教育教材、防災学習会等である。3つ目は、発災時の判断・行動の教育として防災訓練、総合的な学習の時間等を利用した防災学習プログラム、防災教育教材、防災学習会等である。

東京都の小学校で使用されている教材は、東京防災の防災ノートが挙げられる。（写真1）

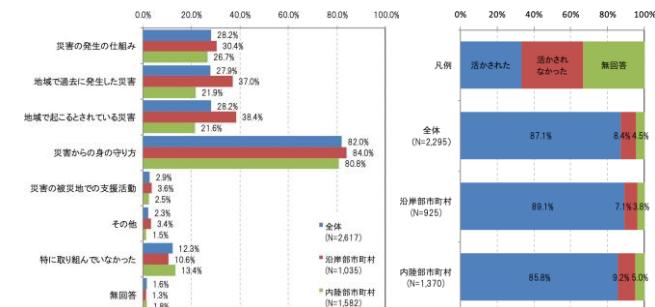


（写真1）東京都教育委員会-防災ノート

これは1～3年、4～6年向けに分けられていてそれぞれ難易度やボリュームの違いがある。子供でも

実践できる災害対策をイラストを用いてわかりやすく紹介されている。消防士さんに話を伺ったところこのノートは常に学校に置いておくもので、授業の一環として利用されているということがわかった。文部科学省の調査によると、東日本大震災前において、約8割の学校等で「災害からの身の守り方」について指導されていたが、「地域で起こりやすい災害」について指導されていたのは約3割であった。防災教育を実施した学校の約9割が、東日本大震災時の主体的な行動等に活かされたとしている。

（図1）



（図1）文部科学省調査

文部科学省調査では、学校以外でどのような防災教育が行われているのか調べる為に、5月19日に行われた八王子と町田の連携イベント「チャレンジ防災」に参加した。（写真2）



第6回チャレンジ防災の
ポスター。（写真2）

チャレンジ防災では、はしご車に乗る体験や（写真3）、AEDの講座（写真4）等が行われていた。



（写真3、4）チャレンジ防災-はしご車、AED体験

学校以外での防災教育は様々な体験を経て子供の防災意識を向上させていくことが行われていた。

駿河台大学研究論文防災訓練参加者調査からみた防災意識の構造より、防災力を上げるには防災意識を高めることが重要であるということがわかった。また、防災意識を高めるには防災に関する知識と防災イベントへの参加等の経験の2つが必要だということがわかった。

3. 調査内容から抽出した問題点

防災ノートの問題点は、サイズが大きく持ち運びに難があり、持ち歩くという使い方が考えられないことが挙げられる。ノートには、避難時に必要なものなどを書き込んでおけるページがあるにもかかわらず持ち運びが出来ないことで意味を成していない。

また、文部科学省の調査で東日本大震災前において、約8割の学校等で「災害からの身の守り方」について指導されていたが、「地域で起こりやすい災害」について指導されて いたのは約3割であるという結果から、地域特有の災害にもっと着眼する必要があるのではないかと考えた。

そして、最近挙げられる問題として学区が違っても自身の入学学校を選択できるようになった為自宅の避難所と学校の避難所が異なる場合などがある。

4. コンセプト

「持ち運び可能な防災手帳」をコンセプトとする。持ち運びに難がある現在の防災手帳を改善し、手軽に使うことができるものを提案する。

5. アイデア展開

地域は私の学校がある町田市小山地区とす

る。この地区に限定する理由は、上記で述べた通り避難所の区別が子供には難しいことと、地域特有の災害について学べるツールが少ないからである。

防災意識を高めるには防災に関する知識と防災イベントへの参加等の経験の2つが必要ということから内容は、災害の予備知識、簡易ハザードマップ、避難場所の話し合いツール、クイズ等の知識を与えるものと防災イベントカレンダー等体験を促すものを検討している。小学生に興味を持ってもらう為に、イラストや多彩なカラーを使いわかりやすい表現を心がける。

6. 試作

避難所の話し合いツールの試作をした。（図3）小学生向けということで漢字にはルビを振ること、わかりやすい言葉を使うことを意識している。また、鉛筆の柄を使い書き込み可能なことを表現している。そして小山地区では地震時と水害時の避難所が違うという問題点があるので分けて書くスペースを確保している。



（図3）試作

7. 今後の展開

完成した試作品を小学生や先生に提示し意見をもらう。いただいた意見をもとに修正を施し本制作に入る予定だ。

8. 参考文献

- 東京都防災ホームページ（5月）
<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp>
- 論文：防災訓練参加者調査からみた防災意識の構造
<https://www.surugadai.ac.jp>（6月）
- 内閣府防災担当-防災意識の向上（8月）
<https://www.bousai.go.jp>